

東由利町報

№ 218の① 昭和50年(1975)1月1日

発行 秋田県東由利町役場 印刷 K K本間印刷所

毎月1日発行(1部20円)昭和42年7月21日第3種郵便物認可

町の概況

人口総数 6,701
うち男 3,273
うち女 3,428
世帯数 1,520
面積 148.51km²

農業センサス
2月1日で実施
農家の世帯員状態、経営の現状など、農家の実態を明らかにするために実施される一九七五年農業センサスは、二月一日現在で実施されています。
この調査は、昭和二十五年以来五年ごとに実施されている最も基本的な統計調査で、その結果は、国・県・市町村の農業振興や地域発展計画等の基礎資料として広く活用されています。
二月一日を基準に、調査員が各戸を巡回、聞き取りします。①農業就業人口②耕地や山林の面積③家畜④農用機械⑤生産の状況など世帯主が不在でもよいよう準備の上、調査に協力がのぞまれています。



長 沢 議 長

新年おめでとーい。昨年は新春の言葉として町民の皆様にはケチケチ運動を勧め、耐乏生活をお願いしたところでありましたが、アラブの石油再値上げの通告にもあるように不況の嵐は益々強まり住民生活を圧迫して来るものと予想され本年は一層心を引き締め対処しなければならぬものと考えられます。
昨年の稲作は、八月の好天に恵まれ作況指数百四と近年にない豊作であり、また米価の値上げ等もあって農家の収入は大幅に増えています。安易な気持ちで油断すると高物価の前に雨散霧消しかねない情勢です。生活用品を始め、営農用品でも不要不急のものは買

勤勉さ発揮し 不況の克服を

町議会議員 長 沢 毅

には額に汗を流して得た金銭の尊厳を再認識し、慣れ切った消費生活をセーブ、無駄の多い生活を断つこと、日本人の特性である勤勉さを最大限に発揮することが最善の方法ではないかと思われまふ。
最近、自分がよければ他人はどうなってもかまわないという利己主義的な風潮が表面に押し出されて来ているのは悲しいことです。不平や不満を並べているだけでは進歩も発展もありません。
町民が丸一丸となって、生涯教育の精神を学び、勤勉、勤労の源泉でもある健康に留意しながら額に汗してこの不況に立ち向かう年にしたいと思ひます。
最後に、昨年は町内に六件の火災がありました。あたら財産が、ちょっとした油断で失なわれたことは本当に残念です。今年こそはみんな火災に十分注意し、無火災を達成、名実ともに新しい町づくりに町民各位とともに精進して行きたいと思ひます。



佐藤教育委員長

新年おめでとーい。政治的にも、社会的にも、また経済的にも激動の四十九年を送り、五十一年の新しい年を迎えることになりました。一向に沈滞する気配が見られず、輝かしい新年を迎えては言ひ得ないような気がしてなりません。
インフレ、狂乱物価、不況等がこの先どうなるのか心配

年頭にあたり

教育委員長 佐藤 松之助

また教育条件を整備し、施設設備の充実のため努力をいたしたいものと考へます。現在のような経済状況では、色々困難なこともあらうと思ひますが、地域父兄の要望、

「明るい選挙」の決意いまから
本年は、四月に知事・県議の統一地方選挙、八月に町長の選挙が予定されています。有権者が直接政治に参加できる唯一の権利を誰からの干渉も受けずに正しく行使するために、今から明るい選挙の心がまえを十分にし、適法な事前運動等にかかり合ひましよう。

選挙人名簿登録者数

投票区	49, 10, 10 (確定)		
	男	女	計
第1区	173	177	350
第2区	165	184	349
第3区	91	93	184
第4区	457	499	956
第5区	32	39	71
第6区	456	488	944
第7区	36	34	70
第8区	30	23	53
第9区	176	183	359
第10区	297	334	631
第11区	46	49	95
第12区	325	342	667
第13区	48	51	99
計	2,332	2,496	4,828



迎春

山と水：汚れを知らぬ郷土の自然。役場裏から高瀬川と虚空蔵山を望む

親子でモチつき大会 宿小



喚声をあげながらモチをつく宿小児童たち(和田校長撮影)

宿小小学校では、春以来、生育観察と実習を続けて来た学校田から収穫した米で、正月には一足早い十二月月上旬、お父さんやお母さんたちを招待してモチつき大会を実施、おいしいモチを腹いっぱい食べたあと、親子でボールボールやドッチボールに興じ、楽しい一日を過ごしました。

役割を分担、会場の体育館に五組のウチを準備したりモチ米を蒸したりしました。

児童たちから喚声
ふかふかと湯気の立つ蒸し米が会場に運び込まれると、ハチ巻きをして待ちかまえていた児童たちから喚声が上がり、親子交替で元気なモチつきが開始されました。つき終わったモチはさっそく

町社協に5千円
遭難さわぎのお礼に
昨秋、単独のキノコ採りで遭難さわぎを起こし町民に迷惑をかけたお詫びとお礼のしるしとして、このほど佐藤太郎さん(田代)のご家族から町社会福祉協議会に五千円が寄せられました。

毎日奨学生募集

毎日新聞社、毎日育英会では、大学・短大等に進学を希望する学生に毎日奨学制度を設け利用させており、現在昭和五十年年度生を受けつけています。

感謝を新たに

親子の断絶、カギツ子など児童をとり巻く環境悪化が、色々な形で世相に反映され波紋を投げかけているときだけに、親子で楽しみながらモチをつき合い、勤労の喜びと感謝の心を新たに親子のふれあいを大きくした同小のモチつき大会は、大きな成果を上げたものと見られ、六年児童の一人は「六年間の学校生活で最も楽しい思い出になった」と語っていました。

勤労を喜び

三杯半から五杯のおかわりまで満腹になった児童たちは続いて父兄を相手にドッチボールやボールゲームに興じ、正月目前の一日を、親子で心ゆくまで楽しめました。

腕によりをかけたお母さんたちの味つけで、雑煮にされ、七十人の父兄と百人の全校児童で試食、学校田を中心にしたこの一年間の楽しかった作業の数々に思いを馳せ、勤労への感謝の気持ちを大きくしました。

心に太陽を持つて

東由利町長 小松 栄 男

昭和五十年の太陽が昇った。
西暦一九七五年、本年成人を迎える諸君は満四十五歳で二十一世紀の人間となる。
人類はこの四半世紀をどのような歩みをするのだろうか。それについても思い出すことは、一九三〇年代の情勢である。
歴史は例証の哲学といわれるが、当時を顧みると現代との類似点が多い。

時の農村不況は忘れ得ぬ記憶である。
この不況の対応策に、各領国は自国の経済圏を護つて他国の経済活動をボイコットした。困ったのは日本、イタリヤ、ドイツであり、世相は極左に行くか、ファシズムにな

現在各国は、複雑な利害の交錯の中にある。自国の有利が他国の不利になり、それを調整しようとする国内で摩

昨年度で、前期の過疎対策として十億円にのぼる事業が完了になった。本年から新たな五カ年計画で十五億円の事業を実施して行く。
振興山村事業も第一次が昨年で終わり、本年は第二次の指定を受けるべく準備をする

懸案の老人いこいの家は近々オープンするし、本年は公民館に着工する。また建設中の児童管理センターを完成させる等々。
総需要抑制下にあつて、昭和五十年度も自治体の途は険しいが、おたがい、心に希望の太陽を持つてこの年を歩んで行きたい。

皆様のご健康を祈念し、新年のごあいさつといたします。

「町」の地位を鮮明に

長谷山喜一郎

明けましておめでとうございます。町民の皆様、新年は物別れに過ぎないと思いますが、町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

町民の地位を鮮明にすることは、町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

公民館建設必ず実現

小松 与惣雄

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

富源然流モットウに

長谷山直助

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

不平不満の消化器に

小松 豊

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

農協は原点に返れ

高橋 俊一

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

不況時こそ積極策を

小野 昭一

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

地域産業の安定を

川尻 幾郎

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

省みて望みたいこと

藤原 虎之助

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

昭和50年 今年はいこれを

議員 欄

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

昭和生まれの奮奮を

阿部 幸悦

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

夢多い町づくりを

佐藤 文一郎

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

町民の地位を鮮明に

長谷山喜一郎

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

公民館建設必ず実現

小松 与惣雄

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

富源然流モットウに

長谷山直助

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

不平不満の消化器に

小松 豊

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

農協は原点に返れ

高橋 俊一

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

不況時こそ積極策を

小野 昭一

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

地域産業の安定を

川尻 幾郎

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

省みて望みたいこと

藤原 虎之助

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

昭和50年 今年はいこれを

議員 欄

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

昭和生まれの奮奮を

阿部 幸悦

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

夢多い町づくりを

佐藤 文一郎

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。



十二月九日、本荘高校下郷分校生徒会(鈴木俊晴会長)から、十円硬貨などがギッシリ入った二つの善意の小箱が町社会福祉協議会(小松栄男会長)に寄せられた。二つの善意の小箱には、同生徒会が、文化祭にあわせて行った慈善バザーの売り上げ金一万

下郷分校・東由利中から協に相次ぎ善意の寄金

東中もバザーの益金

また、同月十六日には東由利中学校生徒会(木島忠志会長)から、十円硬貨などがギッシリ入った二つの善意の小箱が町社会福祉協議会(小松栄男会長)に寄せられた。

気軽に相談を

新しい民生委員が決まる

不慮の災害等により、著しく生活が困窮することになった人たちに、援護の手を差し伸べ、その更生指導にあたるのは老人福祉、心身障害者の社会復帰、児童や幼児



町社協に善意を寄せた東中生徒会役員と町長

町民の地位を鮮明に

長谷山喜一郎

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

公民館建設必ず実現

小松 与惣雄

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

富源然流モットウに

長谷山直助

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

不平不満の消化器に

小松 豊

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

農協は原点に返れ

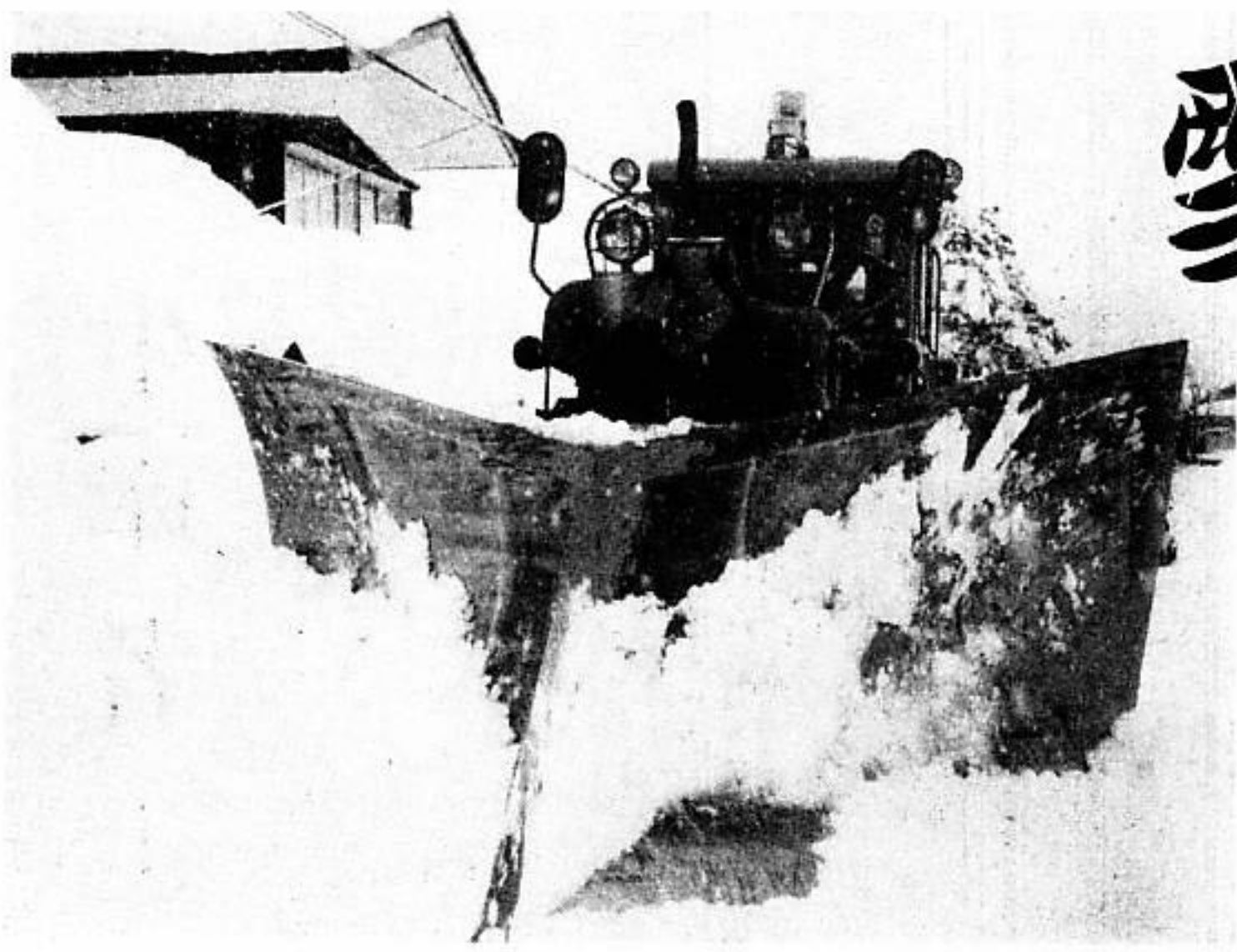
高橋 俊一

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

不況時こそ積極策を

小野 昭一

町民の地位を鮮明にすることが必要と考えられます。

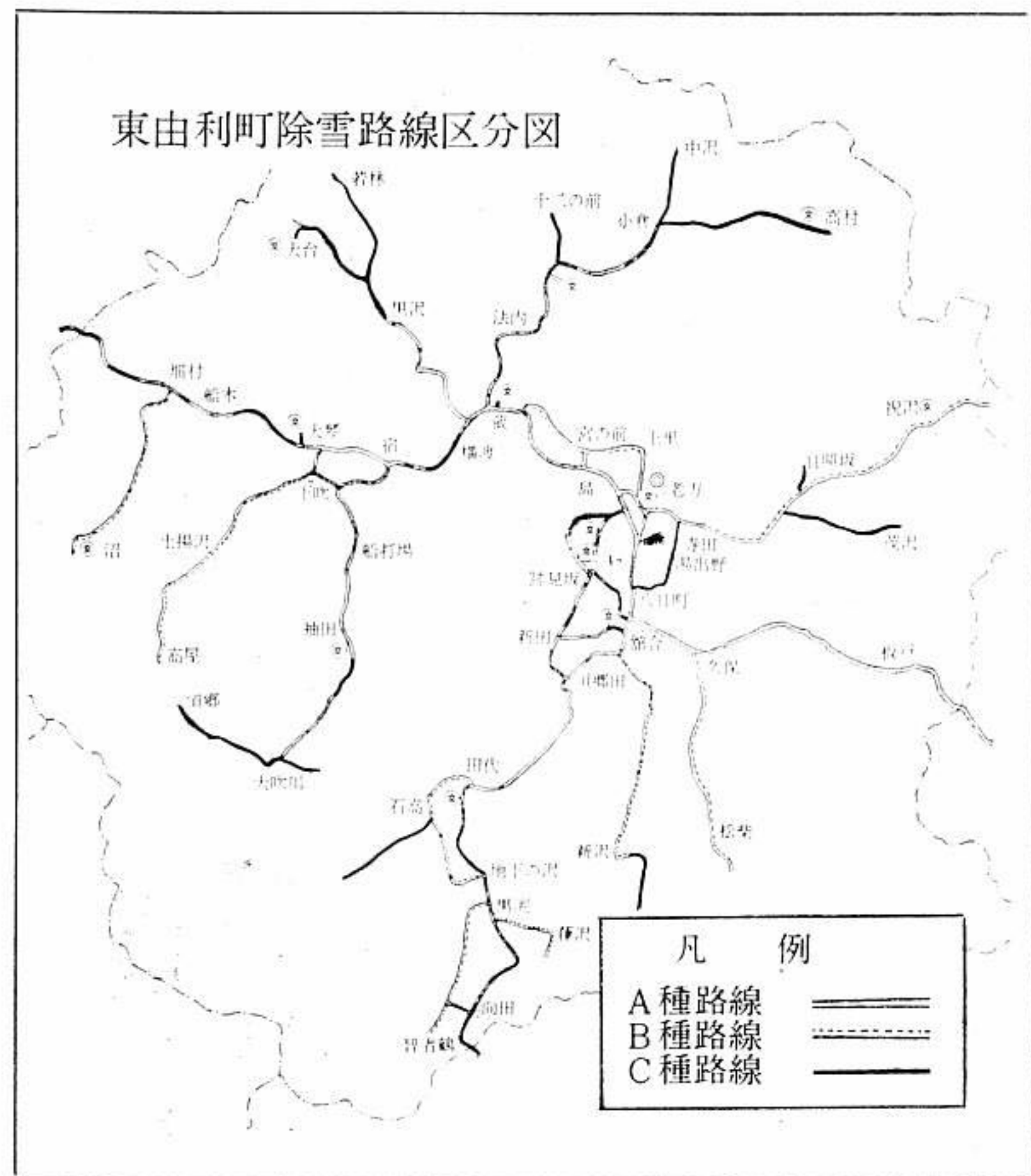


雪に挑む

空前の豪雪に見舞われた昨冬とは比較にならないほど、今冬は除雪車が活躍の場を大に迎えている。今冬は、その除雪態勢を、生活道路の確保、冬期交通の確保に町民各位の一層の協力をお願いしたいと思

こんな大雪にならないでほしい（昨冬新町で）

そこで町では、この二十九路線の交通量など住民生活との密度を考慮し、別図のように路線にA・B・C三種のランクづけを行い、除雪の優先順位を明確にしています。すなわち、A種路線は、国道一〇七号線および黒瀬線、法内線の一部など通学通学バスが運行されている県からの除雪委託路線三十・七号を含む十二路線五十三キロです。その内訳は、国道全線・黒瀬線（郡境まで）・法内線（小倉まで）・台山線（老方館合間）・須郷田跡見坂線・下吹線・老方沼館線（寺田まで）



違法駐車は除雪の妨げ。駐車などのため除雪車が運行できない場合は、事故防止と安全を考慮し、その地点から折り返す場合もあるとして活用し、より効率的な除雪を行うためには、町民の理解と協力が欠くことのできない条件の一つであり、その認識と協力が強く求められています。

東由利町報

No. 218の② 昭和50年（1974）1月1日
発行 秋田県東由利町役場 印刷 KK本間印刷所
毎月1日発行（1部20円）昭和42年7月21日第3種郵便物認可

カラー電話機、親子電話機はいかが？
電話のダイヤル化（自動化）に伴い、カラー電話機や親子電話機の設置が可能となります。
本町の電話は、本年夏頃までの間に自動化になるものと予定されており、老方郵便局を皮切りに、電話機や親子電話機を展示して希望者を募っています。
カラー電話機はダイヤル化の際、単独電話をする方に限り、色はグリーン・アイボリー・ホワイト（象牙色）、グレーの三種で、料金は工事費が二千元、毎月の使用料が五十円です。
親子電話機は、単独でも共同でもつけられ、寝室と居間など希望に応じて自由に設置できます。料金は債券一万円、毎月の使用料が事務用二百円、住宅用六十円となっています。
希望者は一月十四日まで老方局へ申込みのぞまれています。

給与など14案件審議

一般会計 5千8百万円追加
館合水道の改良も契約
十二月十七日、全議員が出席して開かれた第八回町議会定例会は、会期を同月十八日までの二日間と定めたあと、小学校統合計画などに関する二議員の一般質問で当局の考え方が質され、続いて審議に付された昭和四十九年度町一般会計補正予算案など十四件をいずれも原案どおり決定して閉会しました。
審議に付き、当の支給を規定したもの（教育委員会教育長の給与及び勤務時間に関する条例の一部改正）
町職員給与条例を改正
町一般会計の職員給与及び手当について国家公務員の給与に準じて現行の月額三万二千元を引き上げ、十五万三千円としたほか、住居手当に引き上げ
町職員の給与改善を行う必要があり、それに必要な条例の内容を整備したもの。（一般）
職員の給与に関する条例の一部改正
集落移転条例五十二年まで昭和四十九年三月三十一日までの期限満了であった（地小集落移転促進条例を、同四月一日から引き続き昭和五十二年三月三十一日まで有効とするようにした。）（地小集落移転促進条例の一部改正）
老人いこいの家、町営診療所の設置を条例で規定。
台山に建設中の老人いこいの家および、さき完成をみた大琴診療所等の設置および管理運営について条例で規定



議会定例会から

新鋭機含む8台で今冬の除雪態勢

開されます。町では、前号でもお知らせしたとおり、新鋭のロータリー車を含む八台の除雪車とそれに見合うオペレーターで冬期交通の確保に万全を期すこととされています。
今冬は、その除雪態勢を、生活道路の確保、冬期交通の確保に町民各位の一層の協力をお願いしたいと思

除雪区間一〇五キロ
まず、除雪区間ですが、町民の生活道路として最少限冬期交通の確保を必要とする路線は二十九路線で延長百五十五キロに及びます。
一たん降雪があれば、このすべての路線が同時に除雪の必要に迫られるわけですから八台の除雪車をフル運転しても、限られた短時間内での十分な除雪は困難になります。

効率的な除雪は町民の協力次第
しかし、こうした町の除雪態勢でも予測できない降雪には必ずしも万全とは言えません。それに追いつくのをかけるように大きな障害となつてくるのが路上への不法駐車と雪かきです。
一刻も早く開通させたい一心で、早朝、深夜をものともせず除雪に取り組んでいるオペレーターたちの最大の願いは「路上に駐車や障害物を放置しないでほしい」ということだと言われます。

一般質問
議会初日の冒頭に行われた一般質問と答へる要旨は次のとおり。
一 一般質問の内容については諸報の事情から一時掲載を見合わせておりましたが、町民の間から要望が寄せられていたため、今回から次のような形で質問および答へる要旨を掲載することにします。
小学校施設の将来は：
沈黙した判断で
質問 蔵小学校の増設問題を含めて、町内小学校の整備に関する今後の考え方を伺いたい。
答 教育問題は多様化しており結論を急ぐことはできない。住民、関係者がお互いに沈黙した考え方で判断して行かなければ将来に必ず過剰を残すことになる。蔵小学校については、宿小あるいは老方小と将来統合できる可能性があるかどうかが問題である。

冬期消防対策は：
検討の機会を持ちたい
質問 冬期における消防団員の不足、消防力の低下に際し、当局は今冬どのような対策を講じたか。消防団の考え方はどうか。
答 出かせぎ者の実数は集計中であるが現在までの互助

突込んだ対策を検討
質問 不況により出かせぎ条件が著しく悪化していることと聞く。実態の把握および事故対策はどうか。
答 出かせぎ者の実数は集計中であるが現在までの互助

情報をつけて対処
質問 台山グラウンドでは最盛期はパンク状態である。現在活用されていない旧中学校グラウンドの整備点検を考へてはどうか。
答 教委、公民館に詳しい情報の提供を願って処置して行きたい。

老人いこいの家 完成間近か



台山に建設中の老人いこいの家（写真）は、予想外に早い降雪で若干の工事が遅れましたが、今月中には完成するものと予定されています。
一部の町民から早くも施設の利用申込みがなされるなど、一日も早いオープンが待たれています。

町道高村線（小倉地内四百四十二号、高村地内七百二十号）を町道から廃止、県営林道としての改良を容易にしたもの。（町道の廃止）
過疎地域振興後五カ年計画を策定。
昭和四十五年から五カ年計画期間とする過疎地域振興計画の期間を終了するため引き続き昭和五十年から五十四年までの五カ年計画期間とする後期の五カ年計画を新たに策定したもの。

町道高村線を廃止
町道高村線（小倉地内四百四十二号、高村地内七百二十号）を町道から廃止、県営林道としての改良を容易にしたもの。（町道の廃止）
過疎地域振興後五カ年計画を策定。
昭和四十五年から五カ年計画期間とする過疎地域振興計画の期間を終了するため引き続き昭和五十年から五十四年までの五カ年計画期間とする後期の五カ年計画を新たに策定したもの。

一般会計補正 人員費に3千4百万円追加。
昭和四十九年度町一般会計歳入歳出予算の総額を七億九千三百五十五万一千円としたもの。
歳入の主なものは▽公務員給与に関する人事院の勧告に準じて引き上げられた職員の給料手当等の人員費三千四百四十一万三千円。▽知事選挙費の本年度所要経費五十九万七千円。▽老人いこいの家管理費八十八万八千円。▽除雪関係費七百七十六万六千円。▽下小屋橋ほか二橋の工事請負費四百九十九万五千円。▽併用林道負担金二百六十万。▽本荘地区消防事務組合負担金六百三十九万七千円の追加など。なお、これらの財源として歳入追加の主なものは、▽地方交付税五千六百六十四万二千円。▽国庫支出金八十三万七千円。▽県支出金四百九十一万七千円。▽町債九十万円など。

49年の足あと

町制の施行を始め老人いこいの家の建設など歴史的な大事業に、町民と一体となって取り組んで来た昭和49年の町の主な足あとを追ってふりかえってみよう。

- 【1月】 ▶空前の豪雪。県下にさきがけて対策本部設置。▶火災相次ぎ幼女焼死。▶消防団出初め式。▶産業振興を協議
- 【2月】 ▶最大積雪3.75m(泡ノ瀬)を記録。町挙げて対策に取り組む。▶豪雪で牛乳給食一時ストップ。▶八郎湯第5次入植者に千葉憲一さん合格。
- 【3月】 ▶統合により法内小が99年の歴史を閉じる。▶豪雪害実態調査結果まとまる。(果樹5.2%, 桑園8.7%, 農業施設5,036㎡)など。
- 【4月】 ▶町制施行、発足式挙行。▶農業委員選挙執行(平均投票率87.4%)▶蔵・法内小統合。▶農業総合指導センター設置。▶専任公民館長に梅津嘉一郎さんを選任。▶町道等の除雪20日で終了。
- 【5月】 ▶中学校で町制記念式挙行▶県岡地区内の集団転作5.5%実施。▶蔵小のスクールバス運行開始。
- 【6月】 ▶県営圃場整備事業(館合)地区47%着工。▶上里線の改良(積寒)発注。▶畜産共進会実施。▶町政モニター30名委嘱。▶全町球技大会実施。▶東中の特別教育活動公開。▶住吉幼児学級開設。
- 【7月】 ▶参議院議員選挙執行(投票率85.5%で全県5位)▶老人いこいの家の建築発注。▶肉用牛生産団地化事業に着手。▶下吹線の舗装工事発注。▶消防訓練大会実施(第4分団連続優勝)。▶団体営土地改良事業(14.5%)発注。
- 【8月】 ▶東田利簡易水道完成式挙行。▶町成人式挙行 174人参加。▶冷水魚生産施設建設発注。▶訪ソ青年の船に2名参加。▶厳しゅうに町追悼式挙行。
- 【9月】 ▶土場沢林道完成式挙行。▶各地区で敬老会実施。▶蔵小創立百周年記念式挙行。▶高村地区の農地造成着工。
- 【10月】 ▶下小屋橋架替発注(2,990万円)。▶ロータリー除雪車購入。▶大雪管理センター建設着工。▶老小創立百周年記念式挙行。▶全町マラソン大会実施。
- 【11月】 ▶町功労者表彰式挙行。▶大琴診療所完成式挙行。▶館合簡易水道改良事業発注(3,580万円)。▶除雪対策確立▶玉小百周年記念式挙行。▶町生活文化祭・発明工夫展・卓球大会開催。
- 【12月】 ▶民生委員25人一斉改選。▶白ヶ沢橋の改良営林署と協定。



新入予定児童
定児童

元気に身体検査

全町で72人、袖小は1人

十二月中旬、各校毎に今年の新入児童七十二人の身体検査と知能検査が行われ、父兄につき添われて検査をうけた児童たちは多少緊張しながらも先生たちの問いに「はい」と答えて、入学への期待に早くも胸をふくらませていました。

今春の新入児童数は、玉米小の十九人をトップに、老方小十六人、蔵小十三人、宿小十二人、住吉小十一人、袖小一人の計七十二人となっています。

新入児童が一人だけで、全校児童数が十三人と、これまでになく小規模化することが予想される袖小小学校の父兄たちの間には、「このままではいよいよと、学校教育そのものに不安を訴える声があがっています。」

同校の小島教頭は、複式小規模校には教師の負担が大きいが、学校経営の面で苦勞も大きいと、教育効果では必ずしもマイナス面だけではないことを強調、「一校ぐらいこんな学校もあっていいのではないかと」と語っています。

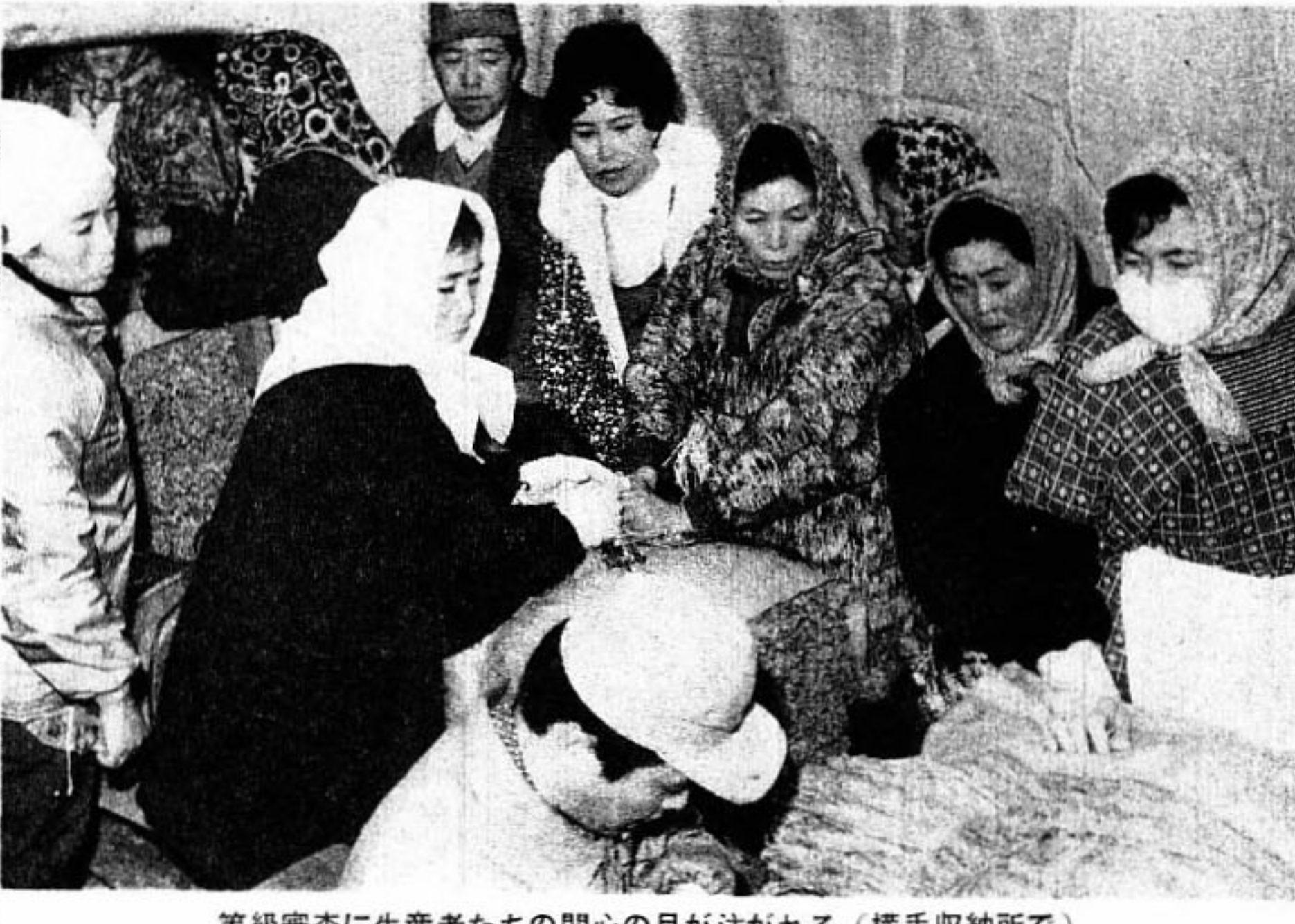
新年は洋上で

古関君「青年の船」団員に

十二月十日総理府主催、国際視野を広めて帰る催の第八回「青年の船」(二つぱん丸)が、全日本青年男女の団員として、訪問各国青年との親善を兼ねて、秋田県から四人が参加して、乗船しました。

乗船した乗客は、乗船後、乗客の乗船を目的に企画されているもので、今回は古関君を含め、秋田県から四人が参加しています。

乗船後、乗客の乗船を目的に企画されているもので、今回は古関君を含め、秋田県から四人が参加しています。



等級審査に生産者たちの関心の目が注がれる(横手収納所)

生産者ホクホク

売上げ最高は10アール37万円

昭和四十九年産葉たばこの買付けが、十二月六日から横手収納所で開始され、本町六十四人の生産者たちは初日と二日目で総額四千三百七十七万四千七百円を売り上げ、不況の師走をよそに葉たばこの生産の喜びを満喫しました。

本町の四十九年産葉たばこは、前半の低温の影響をうけて成績が心配されていましたが、十アールの収量が二九二



袖小たった1人の新入生となる正志君

たった一人に不安

しかし、ただ一人だけの新入児童となる小野正志君の母、和子さん(舟打場)は、「洋上に浮かぶ離島と違って何とかならぬものかと思いますが、できるなら宿小へ入学させたい」と、同級生が一人もいない学校に長男を入学させることの不安を訴え、極小規模での学校教育のあり方に新たな波紋をなげかけています。

新年度へ新たな期待

高村集落農場グループ

集落農場化事業の一環として葉たばこ栽培に取り組んだ伊東竹志さん五人の高村グループでは、町葉たばこ耕作振興会(小松亮亮組合長)からの技術指導や応援をうけながら、家族総出で選別作業に当たり、横手収納所が業務を開始した十二月六日、管内トップで売り渡しを完了、最高で十アール当たり三十三万三千円という素晴らしい成績をおさめました。

いずれも初経験だけに、苗づくりを失敗、本畑移植に商期を失うという大きなハンデに見舞われながらも、初年度でまずまずの成果を上げることにできたのは、専売公社や町振興会の指導に忠実に、熱心に肥培管理にあたったためであるとして、関係者から高く評価されています。

グループ員たちは、今年度も新しい町づくり、国づくりに大きく貢献されるものと期待されています。

この研修費用は、食料代、東京までの往復旅費、事前研修旅費など約九万円を参加者が負担するほか、残りは一切が負担することになっています。

古関君は、昨年四月に町教育委員から、

生活改善推進役も

の経験を土台に、うまくやれば水稲の二倍近い収益を上げることができるとして、町有地を借り入れ新規に一・三の畑地を造成、新年度は大きく規模を拡大しようという意欲を燃やしています。

一方、グループ員の家族たちも、規模を拡大するためには、つまらないことでも多すぎる部内での会合を改め、生活時間のムダを省く必要があることを提唱、葉たばこを中心とした集落農場化の推進にムダが多い部落内の旧慣を改める生活改善にも取り組む積極姿勢も見せています。

母校老小へ自作の絵本

ハチプロ主宰の高橋さん

さき頃創立百周年記念式典を挙げていた老方小学校に、百周年を記念して、昭和十年の同校卒業生高橋広幸さん(東京都田無市住、51歳)から自作の絵本が贈られました。

高橋さんは、昭和四年から七年間老方小学校に在職した高橋孝二氏の長男で、現在、絵本アイデアセンター、ハチプロダクションを主宰、日本児童文学界の絵本部門で演出家兼作家として活躍中といわれ多くのすぐれた絵本を出版しています。

物語と絵の融合された文学といわれる絵本は、物語と絵がそれぞれ別々の専門作家によってつくられる傾向が強く、高橋さんの場合は一人が両方をまとめるのが大きな特徴の一つとなっています。

寄贈を受けた老小の先生たちは「文章が簡明で味わい深いという、絵も繊細で現代センスにあふれている」と高く評価しています。



初経験ながら共同作業に精出す高村グループ

佳良サレ

電話をかけるとき必ず自分を名づける。今年中には電話が自動化されると聞いていますが、それに合わせて町民の電話のマナーをいまい一度町で指導してもらいたい。

職業柄、私は電話のない生活が考えられないほどになつていますが、町民から来る電話の半数以上は自分の名前を名乗らず、問いかねしても「小倉です。」「黒淵です。」「と、部落名を言う程度でさっぱり要領を得ないことがあります。こうした電話に限って長電話で、おまけに要件がま

飲酒運転の危険性をもう一度じっくり考えてみると、次のようなことがあげられます

- ① 注意力が鈍くなる。
- ② 見える範囲(視角)が狭くなり視力が異常になる。
- ③ 交通の状況、道路の状況に応じて適切な操作をする「反応動作」が鈍くなる。
- ④ 操作を誤りやすくなる。
- ⑤ 道路標識や歩行者などの発見が遅くなり、見落したりするほか眠くなる。
- ⑥ 恐怖感やうすさぎ、平気でスピードを出すようになる。

今月の作業停電

9月9日 12時 石高・大琴・舟木・畑村・奥ヶ沢・杉森・沼。13時 16時 宇戸坂・家ノ下・松沢・板戸。21日 9時 15時 袖山・舟打場。27日 9時 12時 館合新田。

慶弔だより

11月26日・12月20日

○ 出生 おめでとう

千葉 勇 島 寛 長女
小野美幸 上里 弥悦郎二女
浅田大樹 舟木 均 長男
畠山尚子 日照坂 久慈長女
遠藤和枝 新田 誠喜 長女

○ 結婚 おしあわせに

阿部 静子 由利宿町
佐藤 敬子 向黒田
横山 三子 土場沢
小笠原 房子 舟木
今阿部 芳子 横本
野部 子史 本莊市

○ 死亡 お悔み申し上げます

佐藤巳之松 大琴 68歳
佐藤 大吹川 45歳
畑山 操 大小路 53歳
横山サタ 泡ノ瀬 77歳
菊地アキエ 館西 66歳
佐々木善之助 大琴 66歳

つたく果たせないことが多いためです。

スピードの時代といわれる今日は、いきおい電話での用件が多くなり、そんなときに自分を名乗らない長電話につき合わされていては迷惑千万です。前にも町報に載せたことがあるように、電話をかけるときのマナーとして

- ① 必ず相手を確認する。
- ② 自分をはっきり名づける。
- ③ 用件は手短かに要領よくするの三点をぜひ町民に指導された。

答 町が指導すると言っても限度がありますが、公民館等とタイアップして機会あるごとに啓発し、町民各位のご理解をいただくことにいたします。(総務課長)